# 彩の歳時記

平成二十四年　十二月

山路を登りながらこう考えた
智に働けば角が立つ。
情に棹(さお)させば流される。
意地を通せば窮屈だ。
とかくに人の世は住みにくい
住みにくさが高じると、
安い所へ引き越したくなる。
どこへ越しても住みにくい
と悟った時、詩が生れて
画(え)が出来る。

## 十二月の暦

**一日　映画の日**　映画産業連合会が1956（昭和31）年に制定。1896(明治29)年11月25日、神戸でエジソンのキネトスコープを使用した日本初の映画が一般公開。会期中のきりのいい日に制定。

**二・三日　秩父夜祭・京都祇園、高山飛騨祭と共に日本三大曳山祭の一つ。三百年の歴史を持つ。**

七日　**大雪【二十四節気】**積陰雪となり、至りて粟然として大なり」北国では本格的に雪が降り出す。

**九日**

**漱石忌**　近代文学を代表する小説家・**夏目漱石【1867～1916】**の忌日。東京生まれ。

松山中学、第五高校(熊本)の教師を経て、1900年、**ロンドン留学。俳誌『ほととぎす』**掲載の**『吾輩は猫である』**により文壇に登場後、1907年、朝日新専属の作家に。**『三四郎』『それから』『門』**などを発表後、大病を経て**『こゝろ』『道草』『明暗』(未完)**などで、**近代知識人の苦悩**を描いた。当時の自然主義文学と異なる作風で**余裕派**と呼ばれた。**ロンドン**留学時の下宿が記念館として残る。

十二日　**小津忌**　映画監督・小津安二郎【1903～1963・12・12】の忌日。「小津調」と称される独特の映像世界で世代を超えて優れた作品を生み出し、没後50年になろうとする現在も世界的にも高い評価を得ている。東京深川に生まれ。1923年に松竹蒲田撮影所に入社。墓は北鎌倉円覚寺。名作**「東京物語」**は今も色あせない。晩年までの作品を執筆した蓼科にあった仕事場(茅葺屋根の建物)「無芸荘」は、現存し、一般公開されている。

小津の言葉に**「何でもないことは流行に従い、重大な事は道徳に従い、芸術の事は自分に従う」**

**十七日～十九日　羽子板市【浅草寺】**江戸時代の歳の市が華やかな羽子板の市に転じた。

二十一日　**冬至(とうじ)【二十四節気】**一陽来復。陰が極まり陽が帰る。境から運が向いてくる転換の日でもある。

二十三日　**天皇誕生日**：**今上天皇(きんじょうてんのう)・明仁陛下(あきひとへいか)【第一二五代】**は昭和八年(1933)年ご誕生。

今年は七十九歳になられる。妃殿下と共に日々公務に励まれる姿は、国民の信頼を得、また、励みになっておられる。

**二十五日　クリスマス**・イエスキリストの生誕の日とされる。西暦の元になる。

三十一日　大晦日　おおつごもり

## 十二月の歌

**「お正月」**　明治三十四年（1901年）　**曲　滝廉太郎【1879～1903】**

**『幼稚園唱歌』**の中で、もっとも愛唱された歌。作詞の**東くめ【1877～1969】**が、浅草の仲見世や境内の羽子板市など、暮から正月にかけての賑わいから、イメージして作ったといわれる。口語体のわかりやすい歌詞に、**ヨナ抜き長音階**の旋律。

ヨナ抜き長音階とは、明治時代に伊澤修二によって考案された、ドレミファソラシの七音を、ヒフミヨイムナと呼び、ヨ(ファ)とナ(シ)を抜いた五音からできている。

**お正月。**

作詞　東くめ
作曲　瀧廉太郎

もーいくつねると、
お正月。
お正月には、
凧あげて。
こまをまはして、
はやく来い来い。

もーいくつねると、
お正月。
お正月には、
おいばねついて、
はやく来い来い。

お正月。
まりついて。
遊びましょー。
お正月。